

2012.5.27

大学教育学会第34回大会

# 図書館ラーニングアドバイザー を活用した学部学生 レポート作成能力の向上支援

○郷原正好(神戸大学附属図書館)

[gohara@lib.kobe-u.ac.jp](mailto:gohara@lib.kobe-u.ac.jp)

小島浩子(信州大学附属図書館)

# 本日の発表の流れ

---

1. 教育・学生支援連携会議
2. 高等教育研究センターと  
図書館の授業連携
3. 教育的効果
4. 今後の課題

# 教育・学生支援連携会議

---

- ◆平成23年度にスタート
- ◆教育関連の企画立案を行う組織
  - ◆全学的な教育・学生支援に係る事項
  - ◆質的向上の推進
  - ◆教育の質保証

(中期目標・計画で導入検討しているGPAに向けた学習支援・修学支援の強化など)

# 教育・学生支援連携会議

◆組織:教育や学生支援に関する学内7センターの連携組織

◎議長:教学担当理事

●高等教育研究センター(副理事・副学長(教育・学生支援担当)) ●e-Learningセンター ●学生総合支援センター ●キャリアサポートセンター ●アドミッションセンター ●環境マインド推進センター ●国際交流センター

(○学務課 ○学生支援課 ○入試課 ○国際交流課)

○その他

附属図書館, 全学教育機構, 総合健康安全センター

# 教育・学生支援連携会議

---

- ◆各センター報告
- ◆平成24年度の課題・取組
- ◆学生支援体制の確立：学修支援WG(4回)での情報共有・整理により以下の連携体制を構築
  - ①ガイダンス業務の連携
    - 全学教育機構, 共通教育支援室, e-Learningセンター, 学生総合支援センター, キャリアサポートセンター
  - ②履修登録ガイダンスの連携
    - e-Learningセンター, 図書館, 共通教育支援室
  - ③レポート支援の連携
    - 高等教育研究センター, 図書館

# 教育・学生支援連携会議

---

## ◆学内版GP：

- ◆学内の教育の質の向上につながる教育取組の中から、中期目標・中期計画の遂行という観点において特に優れたものを選定，図書館として初めて学内版GPを申請

## ◆書類選考：

## ◆コンペティション形式でヒアリング：プレゼンテーション

## ◆学内版GP評価員による選考会議：

- ◆学長・理事・副理事・各学部，全学教育機構など計14名により決定

## ◆平成24年度採択：図書館LAの雇用経費など

# 図書館で学習支援

(高等教育研究センターと図書館の授業連携)

---

## ◆連携内容:

- ◆教育・学生支援連携会議メンバーの教員が担当する授業, 初年次学生対象の授業共通教育科目である2科目が対象
- ◆大学院生による図書館ラーニングアドバイザーが学生のレポート支援(レポートの書き方)を図書館で実施
- ◆学習支援と図書館ラーニングアドバイザーへのFDの2つの教育効果を期待

# 図書館で学習支援

(高等教育研究センターと図書館の授業連携)

- ◆ 教員と図書館は、授業内容について事前検討のうえシラバス作成
- ◆ 教員によるFD(図書館ラーニングアドバイザー及び図書館職員)
  - 学習支援前に実施
    - ① 学生とのコミュニケーション理論と方法
    - ② レポート作成支援の具体的内容・指導方法
- ◆ 図書館LAによるレポート支援(事前予約制)
  - ◆ 週5日月・木・金:14:00-20:00 土・日13:00-19:00

# 図書館で学習支援

(高等教育研究センターと図書館の授業連携)

---



# 図書館で学習支援

(高等教育研究センターと図書館の授業連携)

- ◆ 図書館ラーニングアドバイザーを受けた学生
  - ◆ 受講している25人中19人が図書館ラーニングアドバイザーを利用
    - ◆ レポートの形式での指導を受けた
    - ◆ レポート作成の取りかかりが全くわからないところから指導を受けた
- ◆ 図書館ラーニングアドバイザーを受けた学生に対して教員からの感想
  - ◆ 良い効果：
    - ◆ 引用などの体裁が整っている
    - ◆ 文章の出来が良い
    - ◆ 全員が何らかのかたちで文中・文末引用をしていた
    - ◆ 段落と段落の間にスペースを入れた学生はいなかった

# 図書館で学習支援

(高等教育研究センターと図書館の授業連携)

---

## ◆ 図書館ラーニングアドバイザーへの教員からの感想

### ◆ 課題:

- ◆ トピックセンテンスの理解不足
- ◆ パラグラフ・ライティングの理解不足(指導上で教員と図書館ラーニングアドバイザーで齟齬がある)
- ◆ 自分流のレポートスタイルをとおしたい
- ◆ 課題を出した時に図書館ラーニングアドバイザーに手厚い指導をする, あるいは 回答例などを提示しておく必要がある
- ◆ 回答例を提示しておく必要がある

# 図書館で学習支援(まとめ)

## (高等教育研究センターと図書館の授業連携)

---

- ◆ 文体の統一
    - ◆ 図書館ラーニングアドバイザーの指導を受けている学生は授業の半数の学生で、レポート提出前に修正ができる
  - ◆ 教員から指示されている内容の確認
  - ◆ 引用方法
  - ◆ パラグラフライティングの復習
  - ◆ その他
    - ◆ 締め切り前にレポートを書き上げた学生が数人(導入前ではありえなかったこと)、レポートを締め切り日の数日前に提出するなど前倒しで取り組んでいる
    - ◆ レポートをとおして学生たちは、時間管理を学んでいる
- 
- 

# 図書館で学習支援

(高等教育研究センターと図書館の授業連携)

## ◆教育改善効果を測定する仕組み

◆6月 図書館ラーニングアドバイザーへの学習支援・フォローアップ研修  
(検討中)

◆7月 授業履修学生に対して、レポート作成に対する意識の変化、および図書館ラーニングアドバイザーへの相談効果のアンケート(検討中)

◆9月 図書館ラーニングアドバイザーの分析(検討中)

(1)学生:作成したレポートを比較してどの程度論理的に文章をまとめる能力がついたのか

(2)図書館ラーニングアドバイザー:指導力・論理的思考力・文章力がどの程度向上したか、どのような相談・支援を行ったのか

# まとめ 教育的効果

---

- ◆ 初年次学生のレポートに対する苦手意識が軽減・論理的に文章をまとめる能力が向上する
- ◆ 図書館ラーニングアドバイザーの指導能力(コミュニケーション力・調整力・論理的思考力・文章力)が向上する
- ◆ 教員と図書館ラーニングアドバイザーと役割分担することで、授業を担当する教員のレポート添削や学生指導の負担を軽減し、より良い授業運営に取り組むことができる
- ◆ 複数回の課題による評価やGPA制度の導入に向け公正な成績評価が可能になる

# 今後の課題

---

- ◆ 取組中における学生とのディスカッション
- ◆ 取組後の教員、図書館職員、図書館ラーニングアドバイザーの3者によるディスカッション
- ◆ 学習支援の測定により分析
- ◆ 図書館ラーニングアドバイザーの効果や問題点を明らかにする
- ◆ ライティング・センターの可能性を探る(全学的予算が必要)